

続

お薬



よもやま話

<22>

プラセボ

薬の効き目や安全性を確かめるために、薬効成分のかめた本物の薬と、薬効成分を含まない「プラセボ」と呼ばれる「偽薬」(ぎやく)とを使います。

例えば、錠剤の形をした薬には、効き目の本体である少量の薬効成分と、成形を良くするために使う乳糖やでんぶんのような成分(賦

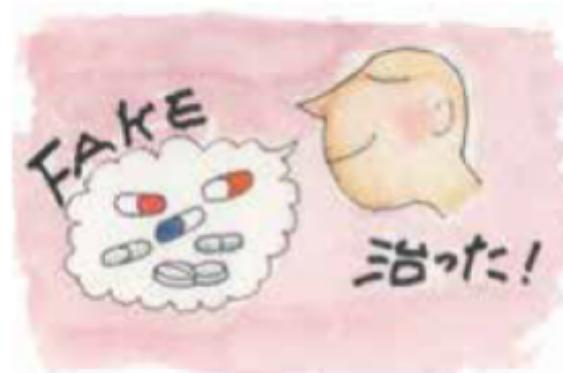
形剤という)が含まれていますが、偽薬は賦形剤ばかりからできいて、外見は本物の薬と見分けがつかないように作られています。

だから偽薬には当然、治療効果はありません。

しかし、病気のとき、「薬」を飲んだだけでもう大丈夫

たというような経験はあるませんか?

有効成分が含まれていな



どうしても、薬を飲んだと思ふだけで心理的作用が働きます。このように効果を表すということがあります。このように効

果を専門的に分からぬようにして用いることによってデータを得ることになります。

は「プラセボ効果」と呼んでいます。

同じような「安心効果」

は薬の世界以外でも見られます。

でもらい、特別な治療や投

宅に帰つてくると「家がやつぱり一番工工な」とつぶ

ないのに心理作用が働いて

れば、旅行を終えて自

然し、症状が軽減する効

果も「プラセボ効果」の一

種です。

やいてみたり、長い出張か

効果の最たるものと言える

効果の最たるものと言える

めのためには、このような

新しい薬の効き目を確か

めに、本物の薬とプラセボ

の両方を被験者にはそれと